

開講年度	令和 7 年度		開講課程	博士課程
授業名	総合医療医学特別演習Ⅱ			
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室	
科目区分	特別科目	配当年次	1 ～ 2 年次	
必修・選択の別	選択	単位	2 単位	
対象学生	－	使用言語	日本語	
キーワード	（精神医学）認知機能障害 （放射線医学）画像下治療（IVR） （リハビリテーション医学）リハビリテーション医学，運動療法，理学療法，作業療法，言語聴覚療法 （救急・集中治療医学）標準化、救急診療 （麻酔科学）周術期医療、医療安全 （総合診療学）インテグラル理論、BPSモデル （総合医療学）全人的医療 （緩和医療学）緩和医療			
担当教員 （下線：科目責任者）	医	（精神医学）教授 紀本創兵、講師 山田信一 （放射線医学）准教授 南口博紀、准教授 生駒 顕 （リハビリテーション医学）准教授 幸田 剣 （救急・集中治療医学）教授 井上茂亮、准教授 上田健太郎、講師 米満尚史、講師 宮本恭兵 （麻酔科学）教授 川股知之、准教授 時永泰行 （総合診療学） <u>教授 廣西昌也</u> （総合医療学）教授 村田顕也、准教授 谷本貴志、講師 佐々木洋子 （緩和医療学）教授 川股知之、准教授 月山 淑、講師 栗山俊之		
	薬			
授業の概要	精神医学、放射線医学、リハビリテーション医学、救急・集中治療医学、麻酔科学、総合診療学、総合医療学、緩和医療学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。			
到達目標	（精神医学） 治療を考える上で精神障害の中核をなす認知機能障害を、多面的に理解し説明することができる。また、認知機能障害の解明及び改善に向けた研究に必要な実験技法を修得する。 （放射線医学） 研究結果の解釈法や発表方法について理解する。 （リハビリテーション医学） リハビリテーション医学に関する研究を遂行できる能力を身につける。 （救急・集中治療医学） 標準的な救急医療を理解し、救急医療システム研究の方向性を探ることができる。 （麻酔科学） 周術期医療に関する論文を読み、説明・議論できる。 （総合診療学） 地域医療における問題についてインテグラル理論やBPSモデルを用いて分析できる。 （総合医療学） 総合医療の根幹をなす全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な知識や技能を修得する。 （緩和医療学） 緩和医療に関する論文を読み、説明・議論できる。			

授業計画	（精神医学） 認知機能障害の理解と治療薬開発に向けた分子生物学的研究の動向と解析法（紀本創兵） 認知機能障害の病態基盤の解明に向けた画像解析法の獲得と理解（山田信一） 精神医学で行なわれている細胞生物学的な実験および、脳神経画像の解析法の原理・評価方法について学び、最新の研究動向の理解を促す。（紀本創兵／山田信一） （放射線医学） スライドを用いてIVRについての講義を行う。（南口博紀／生駒 顕） （リハビリテーション医学） リハビリテーション医学に係る文献を読み、ディスカッションを行うなど、演習を実施する。（幸田 剣） （救急・集中治療医学） 疾病・疾患の周囲の状況を救急の視点でみることができるよう教育を行い、基礎研究や疫学研究の成果から導かれている標準化された医療の成り立ちを学ぶ。（井上茂亮／上田健太郎／米満尚史／宮本恭兵） （麻酔科学） 周術期医療について最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。（川股知之／時永泰行） （総合診療学） インテグラル理論・BPSモデルを用いた問題分析：地域医療現場において抽出された課題について、インテグラル理論やBPSモデルに基づいた分析・議論を行う。（廣西昌也） （総合医療学） 神経筋疾患・循環器系疾患を有する患者、ADHDなどの発達障害を有する障害者のライフステージに応じた全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な側面についてディスカッションし、研究方法を学ぶ。 神経系疾患に関する演習を担当する。（村田顕也） 循環器系疾患に関する演習を担当する。（谷本貴志） 医療社会学に関する演習を担当する。（佐々木洋子） （村田顕也／谷本貴志／佐々木洋子） （緩和医療学） 緩和医療について最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。（川股知之／月山 淑／栗山俊之）
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%（討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など）によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。

教科書・参考書	(精神医学) 【参考書】「カンデル神経科学」 監修：宮下保司 出版社：メディカルサイエンスインターナショナル (放射線医学) 特に指定しない。 (リハビリテーション医学) 【教科書】「リハビリテーション医学・医療コアテキスト」 監修：一般社団法人 日本リハビリテーション医学教育推進機構 公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 出版社：医学書院 (救急・集中治療医学) 【参考書】「救急医学 vol41.No9.2017『救急医学の実践倫理』」 出版社：へるす出版 (麻酔科学) 特に指定しない。 (総合診療学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】「インテグラル理論 多様で複雑な世界を読み解く新次元の成長モデル」 著者：ケン・ウィルバー 訳者：加藤洋平ら 出版社：日本能率協会マネジメントセンター (総合医療学) 【参考書】「老年医学系統講義テキスト」 編集：日本老年医学会 出版社：西村書店 (緩和医療学) 特に指定しない。
----------------	---